



大人も子どもも感性が開く。 自然の中の幼児教育。

幼児教育での自然体験に熱心に取り組んでいる先生方へ
森の中でのびやかに語っていただきました。
子どもの育ちを応援するヒントが、ここにあります。

山本 まず、幼児期における自然体験の重要性とは何でしょうか。各園での取り組みと共に話してください。

子どもの自由が花開く

野村 ながかみ保育園を立ち上げ、私が園長を引き受ける時に考えたのは、子どものために第二に考えた園であることでした。就学前教育で一番大切なのは、自然の中で子どもたちが自由に感じ取ること、その感性です。そのために、時間、空間、選択のフリー（自由）を実践しています。
京井 うちの園の子どもたちを

見ていると、自然の中にいると「なんて幸せそうなんだろう」といつも思います。制約がない自然の中には子どもたちの心を容易に動かす環境があり、生まれ持った感性が生き生きと育まれるからなんですよね。また保育者自身も、屋内にいる時より解放され、子どもたちと一緒にいろいろな発見をして心を動かし、それが子どもたちにも伝わって、いい空間、いい集団を作れている気がします。

漆畑 鳩の子保育園の園外活動は環境教育NPOエコエデュにサポートしてもらっていますが、まず保育士たちに常磐公園での遊び方を研修してもらいました。その時「木々の間から空が見えるでしょ」「葉っぱの匂いを嗅いでみて」と言われてやってみて、楽しかったんです。街中の保育園でも自然の中で遊ぶ体験をさせてあげられると思いましたし、実際に子どもたちが楽しそうに遊ぶ様子を見られています。

たくさんの経験が重なる

佐藤 自然にはたくさんの領域があるんですよね。木や実、虫などにまず目が行くけれど、風、水、光、石と、色々なものが存在しています。同じ春という季節でも1〜2週間経つと雰囲気が変わる。「え、こんなに変わるの」という

くらい、足元の草から違う。それに気が付いてからは、近くの場所を繰り返し回ることでもたくさんの経験ができると思い、散歩によく行くようになりました。

山本 自然を活用した保育、幼児教育について、今の状態を作るまでに乗り越えてこられたことも含め、課題を教えてください。
佐藤 清水白百合幼稚園では、園庭に木登りできる木を植えてありますが、葉っぱや実が園の敷地外に落ちてしまったり、虫が来たりします。もし台風で倒れたり枝が折れたりしたらどうしようという心配もあります。限られた空間で木を育てることに對して、ブロの人たちからもっと知恵を借りられると良いと思います。

若い世代にこそ伝えたい

佐藤 また、保育士や保護者の中にも若い世代が増えてきて、自然の体験が良いとは思いますが「虫が苦手」「草むらに入るのは嫌」という人が少なからずいます。それでも、虫などが大好きな子どもが持つ理解しようと、夏休み中力タツムリを家に持ち帰って飼育し、可愛く思えるようになっていくという保育士もいます。また、草むらに行くことや服やバッグにくっつき虫がつくことがあります、ある先生がそれを「やっかいさん」と

呼びました。愛着が湧くような呼び方をするだけでも、自然との向き合い方は変わると思います。理解を得るための工夫が大切です。

園の経験を家庭にも

漆畑 保護者の理解は私たちも課題です。そのため、連絡帳でどんな自然活動をしたかを伝えるようにしています。すると、保育園での活動に対して良かったという反応に加え「家族でもどんぐり拾いに行ってみた。以前は全然興味がなかったのに、今回はたくさん拾うようになった」と書いてきてくれる保護者もいます。少しずつ理解してもらえるようになっていくのかなと思います。

京井 野外保育ゆたかは、森のようちえんで認可外保育施設なので、自然活動に理解がある、それを望む保護者が多いです。それでも、ご両親もおじいちゃんおばあちゃんもみんなで一人を育て、ほかの子との関わりを知らず、外遊びの経験もほとんどない子が増えています。自分から遊ぶことにハードルを感じてしまつ、いまの子どもたちに向き合いたいと思います。

保育の場も守る、縁

京井 また、ここ最近の夏の暑さには危険を感じています。原っぱに行けば木や土で涼しさを感じ

られるのですが、そこまで子どもの足で15分程、アスファルトの道を歩かなければならないんです。夏はずっと外で過ごすことが難しくなっていると感じています。
野村 ながかみ保育園も、よく外へ出掛けます。やはり、道路、車、暑さと言った危険があり、園外保育用のバスを買っちゃいました。また暑さ対策では、園庭にグリーンパングの協力で植えた木があり、夏にいい木陰を作ってくれます。

地域とのコラボを大切に

野村 そうやって、園の中に木や自然を整えている「方、どうやって子どもたちに地域社会とのつながりを持たせてあげられるかが課題です。自分たちの生まれ育った地域にはどんなものがあるって、どんな人たちが働いているのかを赤ちゃんの頃から感じ取る環境を目指しています。園だけではやれることが限られるので、地域資源や地域の人とうコラボしているのかを考え、昨年は森林公園の自然観察員の話を毎月聞きに行きました。すると、知らないことを教えてもらえて勉強になったと、保育士たちが喜びました。

知らないから、いい

野村 同時に、「知識や経験がないからできない」と新しいことに取

り組む時に躊躇する若い保育士たちには、「知らなくていい、知らないからいい」と伝えたい。子どもたちとそこに一緒にいる、そして感じる。その時の子どもの言葉に「どうしてそう思ったの？」と一緒に不思議に思ったり、驚いたりする、そういうことが大切なんです。

自然の中で先生も育つ

遠藤 「知らなくていい」という言葉は、これから保育者になろうとする学生の背中も押してくれるものだと思います。子どもの前に立つ保育士として十分な知識がないといけないと思っている学生が多いですから。はじめは誰でも新人で、むしろまっさらな感受性が素敵だと先生たちが言ってくださることがありがたいですね。はじめでだからこそ「こうしたいいんじゃないか」ということを試せる機会でもあると思いますし、自然の中にはより試してみたいような環境がある気がします。

山本 学生の学びの場としても、自然は重要な場ですね。そして、皆さんのお話が総じて、若い保育士さんに伴走してくれるベテランの先生や地域の方などがいてくれれば大丈夫だと感じさせてくれました。今日の一番の収穫だったように感じます。ありがとうございました。



鳩の子保育園
園長 漆畑信子さん

ながかみ保育園
園長 野村弘子さん

清水白百合幼稚園
教頭 佐藤弥生さん

野外保育ゆたか
代表 京井麻由さん

インタビュー
認定NPO法人
しずおか環境教育研究会(エコエデュ)
理事長 山本由加さん

コメンテーター
常葉大学短期大学部保育科
准教授 遠藤知里さん